

# むくのきだより 2月号



令和8年1月30日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子



## 4歳児と5歳児の関わりから見たこと



副園長 相田 幸英

令和8年の始まりとともに、園庭の梅が咲き始め、満開を迎えました。太陽の光を浴びて鮮やかに咲く一本の梅の木は、寒さの中で私たちの心を温めてくれています。

さて、3学期は進級・就学に向けて様々な活動に取り組む中で、自分自身を誇らしく感じ自信をもつ一方で、まだ見えない生活への不安も合わせもつ時期です。3学期になり、子供たちの姿からもそのような喜びと不安が読み取れることがあります。年長ゆり組の子が年少さくら組の子に引き継ぎ始めた当番活動でもそのような場面がありました。長年飼育しているカメの世話をしている時のことです。カメを持ち上げる年長ゆり組の姿を見て驚き、年少さくら組の子供たちが動きも表情も固まってしまいました。カメの存在は知っていたものの、まさかこんなに大きいとは思わなかった、という心情だったのではないのでしょうか。その姿を見て、年長ゆり組の子供たちは優しく声を掛けたり世話の仕方を見せたりしながら、年少さくら組の子供たちができることをさせてあげていました。自分たちがしていることを見せたい、教えてあげたいという自信に満ちた気持ちで始めた当番活動の引き継ぎの中で、予想外の反応を目の当たりにしても、相手に応じた声掛けや行動をする年長ゆり組の子供たちの姿に成長を感じた場面でした。また、できることには手を出さずに年下の子を見守る年長ゆり組の子供たちの思いに支えられ、年少さくら組の子供たちも自分もやってみようと安心して取り組む姿やどこか誇らしげな姿がとても印象的でした。子供たちの姿から大人の子供への関わり方を学ぶひとときでもありました。

自信と不安が入り混じり心揺れる時期ですが、異年齢の関わりの中で不安が喜びや自信に変わっていくことがたくさんあるということを実感し、教師はその姿を見逃さずに子供たちの思いに寄り添い共感していきたいと強く感じました。また子供たちの姿を保護者の皆様と共有し、その時その時の子供たちの育ちと一緒に喜び合える関係でありたいと思います。

もうすぐ立春です。赤羽幼稚園では毎年2月3日の節分に合わせて、地域の元神明宮を訪れ豆まきをします。日頃から園の教育活動を支えてくださる地域の方や保護者とともに日本の伝統行事に触れることのできる貴重な機会です。みんなで「鬼は外、福は内」と声を出し、心の中にいる鬼とともに不安や心配も追い出して、良いことをたくさん招き入れたいですね。

幼稚園評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。幼稚園の教育活動に概ねご理解をいただいていると捉えました。幼稚園評価アンケートは、学校運営協議会で報告・検討し、令和8年度の教育計画に反映してまいります。結果の詳細は、後日報告いたします。4月からいよいよ3年保育が始まります。学年ごとの発達段階を踏まえ、一人ひとりが安心して主体的に園生活を送ることができるよう、教職員一同力を尽くしてまいります。今後とも赤羽幼稚園の教育活動へのご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

